

宮古地区の県立高校の状況

1 募集学科・在籍生徒数等（令和7年度：全日制）

学校名	募集学科(定員)	募集 定員	全 校 学級数	在 籍 生徒数	備考
山 田	普通(40)	40	3	72	
宮 古	普通(200)	200	15	489	
宮 古 北	普通(40)	40	3	60	
宮古商工	【工業】機械システム(40)、電気システム(40)、 【商業】総合ビジネス(40)、流通ビジネス(40)、情報ビジネス(40)	200	15	412	
宮古水産	【水産】海洋生産(40)、【家庭】食物(40)	80	6	107	
岩 泉	普通(80)	80	6	116	

2 入試の状況

学校名	学科	R5				R6				R7			
		定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異
山 田	普通	40	27	25	▲15	40	32	32	▲8	40	18	18	▲22
宮 古	普通	200	168	168	▲32	200	188	186	▲14	200	153	151	▲49
宮 古 北	普通	40	26	25	▲15	40	22	22	▲18	40	21	21	▲19
宮古商工	機械システム	40	19	21	▲19	40	28	27	▲13	40	16	16	▲24
	電気システム	40	14	18	▲22	40	12	11	▲29	40	11	11	▲29
	総合ビジネス	40	44	40	0	40	47	40	0	40	35	35	▲5
	流通ビジネス	40	30	40	0	40	33	36	▲4	40	36	34	▲6
	情報ビジネス	40	58	40	0	40	13	15	▲25	40	39	39	▲1
宮古水産	海洋生産	40	12	12	▲28	40	9	10	▲30	40	7	9	▲31
	食物	40	34	31	▲9	40	30	28	▲12	40	25	22	▲18
岩 泉	普通	80	40	40	▲40	80	37	37	▲43	80	41	41	▲39
宮古地区計		640	472	460	▲180	640	451	444	▲196	640	402	397	▲243

3 市町村の中学校卒業者の推移 (R7. 5. 1 時点)

第3期県立高等学校再編計画期間(R8～R17)

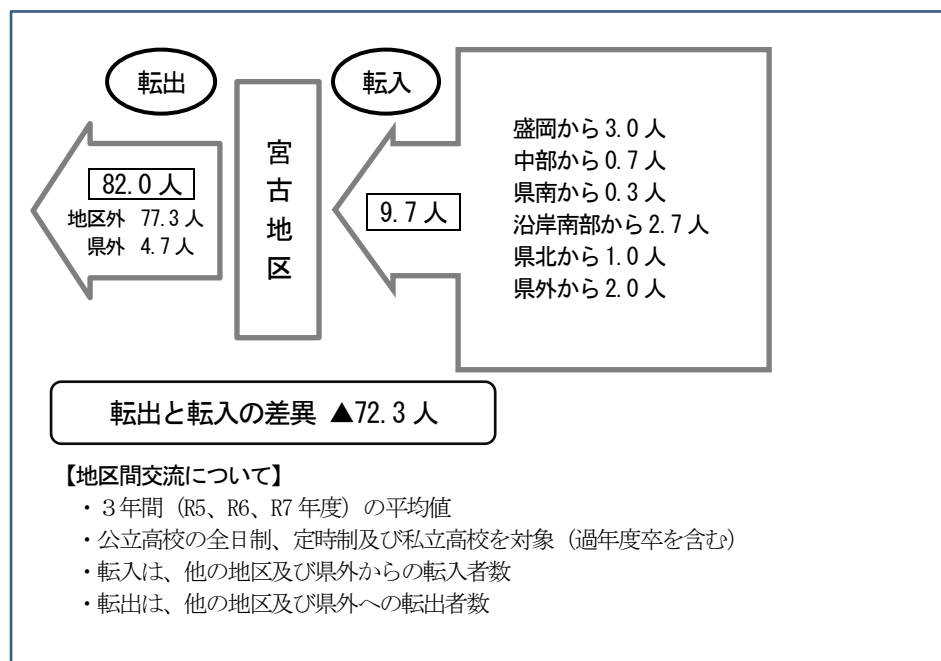
※中段：対前年比、下段：対R7年比

	R7年3月	R8年3月	R9年3月	R10年3月	R11年3月	R12年3月	R13年3月	R14年3月	R15年3月	R16年3月	R17年3月	R18年3月	R19年3月	R20年3月	R21年3月
宮古	336	300 -36 -36	338 38 2	333 -5 -3	299 -34 -37	317 18 -19	317 0 -19	287 -30 -49	252 -35 -84	263 11 -73	246 -17 -90	228 -18 -108	213 -15 -123	215 2 -121	190 -25 -146
*田老	19	13 -6 -6	23 10 4	11 -12 -8	19 8 0	14 -5 -5	9 -5 -10	12 3 -7	9 -3 -10	10 1 -9					
山田	99	92 -7 -7	89 -3 -10	97 8 -2	93 -4 -6	77 -16 -22	96 19 -3	97 1 -2	91 -6 -8	71 -20 -28	71 0 -28	65 -6 -34	67 2 -32	62 -5 -37	58 -4 -41
宮古地域 計	435	392 -43 -43	427 35 -8	430 3 -5	392 -38 -43	394 2 -41	413 19 -22	384 -29 -51	343 -41 -92	334 -9 -101	317 -17 -118	293 -24 -142	280 -13 -155	277 -3 -158	248 -29 -187
岩泉	51	55 4 4	51 -4 0	57 6 6	49 -8 -2	38 -11 -13	45 7 -6	56 11 5	37 -19 -14	30 -7 -21	33 3 -18	34 1 -17	31 -3 -20	24 -7 -27	23 -1 -28
田野畑	18	23 5 5	29 6 11	21 -8 3	24 3 6	16 -8 -2	15 -1 -3	19 4 1	18 -1 0	7 -11 -11	16 9 -2	12 -4 -6	7 -5 -11	7 0 -11	7 0 -11
岩泉地域 計	69	78 9 9	80 2 11	78 -2 9	73 -5 4	54 -19 -15	60 6 -9	75 15 6	55 -20 -14	37 -18 -32	49 12 -20	46 -3 -23	38 -8 -31	31 -7 -38	30 -1 -39
宮古 地区計	504	470 -34 -34	507 37 3	508 1 4	465 -43 -39	448 -17 -56	473 25 -31	459 -14 -45	398 -61 -106	371 -27 -133	366 -5 -138	339 -27 -165	318 -21 -186	308 -10 -196	278 -30 -226

* 合併前の旧市町村名(内数)

卒業者 現中3 中2 中1 小6 小5 小4 小3 小2 小1 5才・4才 4才・3才 3才・2才 2才・1才 1才・0才

4 地区間交流の状況 (3年間の平均)



5 入学者の推計 (R7.5.1時点)

第3期県立高等学校再編計画期間(R8～R17)

学校	学級数	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21
山田	1	18	22	21	23	22	18	23	23	21	17	17	15	16	15	14
宮古	5	151	141	153	152	140	140	145	136	120	117	112	104	98	97	87
宮古北	1	21	19	22	20	19	19	19	18	15	16	15	14	13	13	12
宮商工	5	135	117	128	128	115	120	123	114	100	101	95	88	83	83	74
宮古水	2	31	30	32	33	30	30	31	29	26	25	24	22	21	21	19
参考値			31	33	34	31	31	33	30	27	27	25	23	22	22	20
岩泉	2	41	39	39	40	36	29	32	38	28	22	25	24	21	18	17
計	16	397	368	395	396	362	356	373	358	310	298	288	267	252	247	223
必要学級		10	10	10	10	10	9	10	9	8	8	8	7	7	7	6
参考値計			369	396	397	363	357	375	359	311	300	289	268	253	248	224
参考値必要学級数			10	10	10	10	9	10	9	8	8	8	7	7	7	6

【入学者推計について】

- ・ R 7は実績値（入学者数は、合格者数と異なることがある）
- ・ 過去3年間の入学実績、及び中学校卒業予定者数推移に基づいて算出したもの
- ・ 網掛けはR 7年度募集定員より40名以上の欠員又は20名以下の見込みを示す
- ・ 「参考値」は県境隣接協定及びいわて留学における他県からの入学生の推計を加えた値

令和 7 年度の入試状況について（県立高校全日制）

年 度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
中 学 校 卒 業 者 数	10,677	10,092	10,396	10,077	9,954	9,675
募 集 定 員	8,960	8,960	8,920	8,720	8,680	8,520
総 志 願 者 数	8,197	7,670	7,969	7,601	7,483	6,897
合 格 者 数	7,491	7,194	7,219	6,910	6,804	6,531
欠 員	▲1,469	▲1,766	▲1,701	▲1,810	▲1,876	▲1,989
調整後志願倍率	0.87	0.82	0.85	0.82	0.80	0.80

令和7年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等（全日制）

地区	学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡	盛岡第一	普通・理数	普通・理数	280	287	7	331
	盛岡第二	普通	普通	200	195	▲ 5	196
	盛岡第三	普通	普通	280	286	6	324
	盛岡第四	普通	普通	240	246	6	298
	盛岡北	普通	普通	200	200	0	241
	南昌みらい	普通	文理	160	161	1	184
		普通	芸術	40	34	▲ 6	34
		普通	外国語	40	36	▲ 4	34
		普通	スポーツ科学	80	80	0	93
	盛岡農業	農業	動物科学	40	35	▲ 5	35
		農業	植物科学	40	13	▲ 27	12
		農業	食品科学	40	42	2	51
		農業	人間科学	40	35	▲ 5	28
		農業	環境科学	40	18	▲ 22	18
	盛岡工業	工業	機械	40	37	▲ 3	39
		工業	電気	40	40	0	40
		工業	電子情報	40	40	0	44
		工業	電子機械	40	38	▲ 2	39
		工業	工業化学	40	11	▲ 29	8
		工業	土木	40	36	▲ 4	37
		工業	建築・デザイン	40	40	0	42
	盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	82	2	97
		商業	会計ビジネス	80	82	2	91
		商業	情報ビジネス	80	82	2	98
	沼宮内	普通	普通	40	21	▲ 19	22
	葛巻	普通	普通	80	42	▲ 38	42
	平舘	普通	普通	40	16	▲ 24	16
		家庭	家政科学	40	3	▲ 37	3
	雫石	普通	普通	40	39	▲ 1	41
	14 紫波総合	総合	総合	120	86	▲ 34	88
中部	花巻北	普通	普通	240	217	▲ 23	223
	花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	115	▲ 5	113
		普通	スポーツ健康科学	40	40	0	42
		普通	国際科学	40	24	▲ 16	24
	花巻農業	農業	生物科学	40	36	▲ 4	38
		農業	環境科学	40	22	▲ 18	22
		農業	食農科学	40	34	▲ 6	34
	花北青雲	工業	情報工学	40	28	▲ 12	28
		商業	ビジネス情報	80	80	0	81
		家庭	総合生活	40	29	▲ 11	29
	大迫	普通	普通	40	15	▲ 25	15
	遠野	普通	普通	120	108	▲ 12	113
	遠野緑峰	農業	生産技術	40	21	▲ 19	21
		商業	情報処理	40	8	▲ 32	8
	黒沢尻北	普通	普通	240	196	▲ 44	205
	北上翔南	総合	総合	160	126	▲ 34	127
	黒沢尻工業	工業	機械	40	29	▲ 11	29
		工業	電気	40	25	▲ 15	27
		工業	電子	40	25	▲ 15	25
県南		工業	電子機械	40	24	▲ 16	26
		工業	土木	40	13	▲ 27	13
		工業	材料技術	40	14	▲ 26	13
	11 西和賀	普通	普通	80	67	▲ 13	69
	水沢	普通・理数	普通・理数	240	232	▲ 8	242
	水沢農業	農業	農業科学	40	18	▲ 22	19
		農業	食品科学科	40	12	▲ 28	13
	水沢工業	工業	機械	40	21	▲ 19	22
		工業	電気	40	20	▲ 20	20
		工業	設備システム	40	30	▲ 10	30
		工業	インテリア	40	17	▲ 23	17
	水沢商業	商業	商業	40	28	▲ 12	27
		商業	会計ビジネス	40	24	▲ 16	23
		商業	情報システム	40	40	0	44
	前沢	普通	普通	40	32	▲ 8	33
	金ヶ崎	普通	普通	80	20	▲ 60	20
	岩谷堂	総合	総合	120	81	▲ 39	81
	一関第一	普通・理数	普通・理数	200	200	0	213
	一関第二	総合	総合	200	202	2	217
	一関工業	工業	電気電子	40	38	▲ 2	41
13		工業	電子機械	40	40	0	43
		工業	土木	40	19	▲ 21	22
	花泉	普通	普通	40	40	0	41
	大東	普通	普通	80	27	▲ 53	27
		商業	情報ビジネス	40	3	▲ 37	3
	千厩	普通	普通	120	78	▲ 42	80
		農業	生産技術	40	28	▲ 12	30
		工業	産業技術	40	34	▲ 6	34

計 59

113学科（学系）

8,520 6,531 ▲ 1,989 6,897

※参考＜市立＞

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	38	3	43
	普通	普通	160	164	4	194
	商業	商業	80	82	2	96
計 1			275	284	9	333

今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回） 開催結果

1 実施時期

令和7年8月20日（水）～8月29日（金）の間（実施日は4 実施状況参照）

2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

3 第2回会議内容

- (1) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての概要説明
- (2) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての意見交換

4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者（報道）	地区計
盛岡 （盛岡①）	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 8月28日	サンセール盛岡	18	12	16	6	52
盛岡 （盛岡②）	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 8月20日	サンセール盛岡	16	6	6	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 8月21日	東和総合福祉センター	18	6	12	13	49
県南	奥州市、金ケ崎町、平泉町、一関市	令和7年 8月26日	奥州市役所 江刺総合支所	17	5	15	13	50
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 8月29日	陸前高田市 コミュニティホール	22	3	8	10	43
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 8月21日	宮古地区 合同庁舎	19	0	7	11	37
県北 （県北①）	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 8月20日	久慈地区 合同庁舎	17	3	5	5	30
県北 （県北②）	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 8月22日	二戸地区 合同庁舎	13	1	5	10	29
計				140	36	74	75	325

今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回） 開催結果

1 実施時期

令和7年5月20日（火）～6月5日（木）の間（実施日は4 実施状況参照）

2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

3 第1回会議内容

- (1) 「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」についての概要説明
- (2) 地域の高校に関する状況等の説明
- (3) 各地区における高校及び学科の配置の在り方等についての意見交換

4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者（報道）	地区計
盛岡 （盛岡①）	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 5月20日	岩手県水産会館	20	9	16	7	52
盛岡 （盛岡②）	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 5月27日	岩手県公会堂	19	4	5	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 5月23日	花巻市定住交流センター	20	7	12	19	58
県南	奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市	令和7年 5月28日	奥州市役所 江刺総合支所	20	9	11	15	55
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 6月4日	三陸公民館	22	1	9	8	40
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 6月5日	宮古地区合同庁舎	19	2	7	18	46
県北 （県北①）	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 5月26日	久慈地区合同庁舎	16	2	5	9	32
県北 （県北②）	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 5月23日	二戸地区合同庁舎	18	2	5	11	36
計				154	36	70	94	354

地域検討会議（第2回）の主な意見等

地 区	開催日	主な意見・提言等
盛 岡 ① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和7年 8月28日(木) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初案において、1学級校の地域で果たす役割の重要性を考慮し、地域校を位置付けたことに感謝している。 ・ 高校の統廃合により、生徒の通学時間や交通費等が増えることが懸念されるが、教育の機会の保障という計画の趣旨に反するのではないかと。 ・ 当初案においては生徒の通学負担の増加が懸念されるという印象を持った。 ・ 学びを集約することにより、公共共通機関で通学できない生徒が増えることが予想されることから、寮や下宿の整備を検討する必要があるのではないかと。 ・ 地域産業を担う人材の育成は、住民生活や地域振興にも大きな影響を与えるものであることから、地域課題を具体的に学ぶ学科やコースの設置、教育課程の弾力的な編成を今後も検討していく必要があると感じているところ。 ・ 当初案については、これまでの議論を通じて地域の声が反映され、小規模校への配慮も一定の納得が得られると評価する。
盛 岡 ② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和7年 8月20日(水) 14:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平舘高校および大船渡東高校の家庭系学科の募集停止により、県内の家庭系学科が2校のみとなる可能性があり、家庭科教育の将来に不安を感じている。 ・ 少子高齢化や教員不足が進む中、ある程度の高校再編はやむを得ないと考える。特に専門高校については、センター・スクールの設置が必要という考えに賛同する。 ・ 少子化だけでなく、社会の変化を見据えた高校再編が必要であり、単なる人数調整ではなく将来を見据えた視点が重要だと感じている。 ・ 今回の第3期県立高校再編計画案は、地域産業や子どもたちへの配慮が感じられ、非常に評価している。 ・ 平舘高校の家政科学科について、令和9年度からの募集停止ではなく、状況を見ながら判断する猶予を設けてほしい。 ・ 再編計画については、生徒数の減少を踏まえるとやむを得ないと感じているが、地域に学校や学科がなくなった場合、郷土を支える人材育成が困難になるのではないかと不安がある。
中 部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和7年 8月21日(木) 14:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花北青雲高校の情報工学科は、他の工業系以外の学科と交流があり柔軟な教育ができ、岩手県内、花巻市内に就職する生徒が多く、計画に記載されている企業の求める人材を養成するという観点からも非常に重要である。 ・ 黒沢尻工業高校については、令和9年度に既存の1学科を半導体関連の学科に再編するという事で、地域の産業構造の観点から一定の評価をしている。 ・ 花北青雲高校に関しては、地域や地域産業担う人材を供給できる大事な学校であり、工業のバランスだけで募集停止としていいものか疑問がある。 ・ 地域校という位置付けは、現在大規模な高校もいずれはそのような話になってくると思われ、地域と一体となって学校をより良くしていくことが重要である。 ・ 地域校について、1学級校もできる限り維持するという現行計画の考え方を大切にいただいたことに感謝する。 ・ 専門学科については、物づくりという観点で、県として専門高校への魅力を高めるためのキャリア教育をさらに先導する必要があるのではないかと。

地 区	開催日	主な意見・提言等
<p>県 南</p> <p>(奥州市、金ケ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 26 日 (火)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大東高校の学級減等の判断は、令和 8 年度からの新計画からの地域の取組や結果を踏まえて行うべき。令和 9、10 年度の入試結果を見た上で、複数年の数値から判断するべきではないか。 近年の人口減少を鑑みると高校の再編もいたしかたないと思うので、地域住民に理解のある再編計画にしていきたい。 下宿や寮など通学支援の体制整備を検討するなど、地元の子どもたちにとって通いやすい環境を整えて頂きたいと思う。 杜陵高校奥州校は、不登校傾向や特別な配慮を必要とする生徒の受け皿として貴重な存在である。そのような高校が移転となると奥州市の生徒で一定数通学を断念する生徒が出てくるのではないかと懸念している。 金ケ崎高校の水沢高校への統合について、今後、金ケ崎高校を希望する生徒が不利益を受けることのないよう、従来と同じ条件で安心して入学できる体制を整えていただきたい。 1 学年 1 学級の花泉高校を「地域校」と位置付けて学びの保障を図ることは、特例校との区別を明確にし、評価できる。
<p>沿岸南部</p> <p>(大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 29 日 (金)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸部の人口減少や少子化の背景は東日本大震災の影響がある中、当初案に東日本大震災の影響を考慮する文言がない。 大船渡東高校の食物文化科の募集停止については承服いたしかねる。大船渡市として水産の街を謳っている中、事業者と生徒が共同した取組ができるというのは大きな強みであり、そのような中、食物文化科が募集停止となるのは理解できない。 地域や地域産業を担う人材の育成という観点から、高田高校の海洋システム科の募集停止については強く反対する。 少人数では教育の質が保てないことが懸念される。統合や集約はビジョンを持って進め、専門性の確保や環境整備も考慮すべきである。 水産及び調理師養成施設の集約については、気仙地区から宮古市への通学は難しいため、保護者の負担を軽減するために寮や下宿の整備を検討していきたい。 今回の当初案については、地域校の位置付け等、小規模校を残す方針が示されたことはうれしく感じている。
<p>宮 古</p> <p>(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 21 日 (木)</p> <p>9:30～11:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 学級校の募集停止の基準について、入学志願者の数が 2 年連続して 20 人以下となった場合、原則として翌年度から募集停止とすることとしているが、夢や希望が持てるように、もう少し柔軟かい表現に検討できないか。 宮古水産高校に、水産と調理師養成施設の学びを集約することについては、人口減少、生徒数の減少の中においては、教育や設備を集中し、宿泊施設を整備することにより、子どもたちの教育の質の向上や、水産関係の後継者育成に繋がるものと評価している。 水産の学びなどの集約は賛成である。南北に長い本県にとって、集約して教育の質を上げるということは非常よいと思う。 子どもの学びの場の確保、統廃合による子どもや保護者の負担等の課題に対応するため、寮を含めたサポートの在り方について検討いただきたい。 計画において、「望ましい学校規模を設定しない」と明記されている点は、地域の実情に配慮した柔軟な姿勢として非常に評価できる。
<p>県 北 ①</p> <p>(久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 20 日 (水)</p> <p>9:30～11:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> 久慈翔北高校は本年 4 月に統合されたばかりであり、水産系列および調理師養成施設の廃止は、生徒の選択肢を狭めることにつながると懸念されている。 地元で学びの場があることは、保護者にとっても重要であり、教育機会が少ない地域からは人が離れてしまう懸念がある。 生徒数の減少による学級減はやむを得ないが、学校減は地域や子どもたちの将来に大きく影響するため、慎重な判断を求めたい。 子どもを主語とした教育の視点を大切にし、進路の選択肢を狭めないような工夫を求めたい。 水産や家庭科の学びが宮古に集約されると、これまで希望していた生徒が進路を変更する可能性が高く、地域から該当分野を志す生徒が減少することが懸念される。

地 区	開催日	主な意見・提言等
<p>県 北 ②</p> <p>(二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和7年 8月22日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校再編が学校の集約や規模の縮小に終始することなく、学校現場や、部活動の充実、或いは生徒数確保という基本的な取組についても併せて行っていただきたい。 ・ 募集停止の基準については、原則ということであるが、地域との丁寧な協議をお願いしたい。 ・ 子どもの数が絶対的に減っていく中で、先を見据えた校舎改修や、建て替えを検討してもらいたい。 ・ 人口が減っている中、学級減については仕方がないことと理解している。 ・ 小規模校の存続にあたっては、いわて留学が非常に有効な手立てだと考えている。以前から繰り返し話しているが、生徒募集の条件について、入試条件の一層の緩和や条件整備を進めて欲しい。 ・ 学校規模については、本県の広大な県土、地理的条件等を鑑みて、どの地域の子どもたちも等しく教育を受けられる環境を整えることが大事だと思っている。

地域検討会議（第 1 回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛 岡 ① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和 7 年 5 月 20 日 (火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の就学支援金の所得制限撤廃により、進学費用の面でハードルが下がり、中学生が私立高校に進学しやすい状況になることが予想される。少子化に伴い、生徒数の減少が進む中、私立高校との共存や定員調整についての慎重な議論が必要になると感じている。 ・ 中学生の進路の選択肢を閉ざさぬよう、今後、1 学級校の在り方については、柔軟な対応が大切である。また、盛岡市一極集中を是正する募集定員の調整や、私立高校と募集人数の調整等の検討も必要である。 ・ 高校には、地元の産業ニーズに応じた人材育成を進めて欲しいと感じており、地元根付いた産業の専門コースを設置することもよいのではないかな。 ・ 充実した高校生活を保障するためには、高校の適切な規模を維持する必要があると感じている。県立高校再編計画の策定の際にはその点も踏まえて慎重に検討していただきたい。 ・ 地域課題の解決に向け、知事部局や産業界と協力し、人材育成をより戦略的に進めるべきだと考えている。その際に、専門高校の担う役割は非常に重要である。
盛 岡 ② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和 7 年 5 月 27 日 (火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現計画において 1 学級校の入学者数が 2 年連続で 20 人以下の場合は原則として統合とされている一方、1 学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するということが記載されている。次期県立高校再編計画においても、この方針を継続していただきたい。 ・ 今後、生徒数が減少する中、生徒が自分の将来に向けて多様な学びを選択できる環境や、県内各地域の特色を生かした学びの環境を引き続き作っていただきたい。 ・ 今後の教育政策を考えたときに、公立と私立の共存に踏み込まなければ、根本的な問題解決にはならないのではないかな。 ・ 地域産業の伝承や人材育成に向けた学びを充実させるため、専門高校の教育内容を地域産業と連携させ、専門分野に特化した学びの場を作る等、専門高校を差別化、個別化していくことが必要ではないかな。 ・ 国の制度として総合学科が設立されて約 20 年が経過したところであり、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかな。
中 部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和 7 年 5 月 23 日 (金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医学部進学に関しては、県内志願者の学力の課題が指摘されており、中高一貫教育等を通じた学力向上が不可欠であると考ええる。 ・ 黒沢尻工業高校のように、半導体などの最先端分野に対応した独自のカリキュラムを導入する学校の取組を評価し、今後は志願者増と理工系人材の育成に繋がるよう専門学科の魅力化及び充実を求めたい。 ・ 専門高校において、子どもたちが進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。 ・ 少子化に伴い定員割れが常態化する中で、受検に対する緊張感やモチベーションが薄れている。定員の見直しや競争率の適正化によって学習意欲を高める工夫が必要ではないかな。 ・ 各学校が独自性を持ち、ブランド化していくことが求められる。地元教育委員会としても小中学校と連携し、地域全体で教育の質を高める取組を進めたい。 ・ 不登校・不適應の生徒の進路確保が課題であり、小規模校による温かい対応や学びの多様性へのニーズが高まっている。チャレンジスクールの公立での拡充が望まれている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県 南</p> <p>(奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>5 月 28 日 (水)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私立高校への進学率が 15.7%に達しており、授業料無償化や魅力向上策によって公立高校からの流出が懸念される。今後は、人口減少と公立高校への進学者数減少の影響を踏まえた公立高校の戦略的対応が求められる。 ・ 農業、工業、商業などの専門高校は、地域の基幹産業を支えるために重要な役割を果たしている。最新設備の導入や学科の最適化などを通じ、地域産業の人材育成に貢献できる環境整備を進めることが重要である。 ・ 今後、高校を再編する場合は、生徒の学びを保障するために、学びの地域バランスに配慮しながら進めていただきたい。 ・ 人口減少と少子化の影響を受け、中学生の進路選択の多様性を確保するために、県立高校の再編を 6 地区の広域化で検討する必要性を認識している。 ・ 生徒やその保護者の希望する学びと地元自治体が希望する学びが一致しておらず、乖離が見られる。また、農業や工業等を専門的に学んでも、地元就職するとは限らず、県外就職の割合も多くなっている。専門教育の在り方の再考、カリキュラムの再編が必要ではないかと感じている。
<p>沿岸南部</p> <p>(大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>6 月 4 日 (水)</p> <p>14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師となる人材を地域で育成していくという観点から、医学部進学コース等を設置し、医療人材育成にも取り組んでいただきたい。 ・ 1 学級校もできる限り維持するという後期計画の考え方について、次期再編計画でも踏襲していただきたい。 ・ 少子化等の影響を考えると、県立高校の再編は絶対に必要だと考えるが、単に人数により統合するのではなく、ビジョンを持った統合としてもらいたい。 ・ 地域みらい留学や地域連携コーディネーターの導入は学校の活性化に有効だと考える。学校の運営を教員だけに任せず、自治体と連携した支援が重要である。 ・ 中学校の不登校生徒の増加に伴い、定時制、通信制高校の選択肢を拡充すべき。また、沿岸地域に定時制と通信制併設校を設置し、生徒の選択肢を増やすことが必要ではないか。
<p>宮 古</p> <p>(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>6 月 5 日 (木)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域から高校が無くなることは、保護者の通学負担増や町外流出等の問題を抱えることになる。東日本大震災の被災による人口減少が大きい地域については、他の人口減少地域と同一視して再編を進めないように留意していただきたい。 ・ 学区は盛岡地区への一極集中を防ぐために設定されているものと理解していたが、盛岡地区でも生徒数減少が進む中、学区制の撤廃により県内全域で自由に進学できる仕組みを検討するべきではないか。 ・ 高校教育の在り方を考える際には、地域の産業に適した学科配置となるよう検討していただきたい。 ・ 専門高校の魅力を感じる機会がないまま普通高校への進学が一般化しているのではないかと。地元に残りたい生徒のためにも、工業、商業高校の価値を高め、進学の選択肢として魅力を持たせるべきである。 ・ 定時制、通信制高校について、今後、多部制や単位制のニーズが増えてくると予想される中、沿岸地区にも多部制、単位制の定時制高校が必要なのではないか。 ・ 小規模校、大規模校それぞれの特性を活かし、子ども中心の教育を推進していくべきである。
<p>県 北 ①</p> <p>(久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>5 月 26 日 (月)</p> <p>14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北本線沿いと違い、盛岡の学校に簡単に通えるという状況ではないことから、子どもたちの学習機会を確保する必要がある。 ・ 中学校卒業業者について、5 年後には今年度と比較して 85%、10 年後には 60%を切るということを考えれば、普通科については集約していく必要がある。一方で、久慈地区の産業に合わせたアパレル関係、工業土木関係、水産関係といった学科の存続は必要だと考える。 ・ 少子化が進む中で、学校規模によらず、平等公平に高校教育を受けられるようにしてもらいたい。 ・ 定数を 35 人にすれば財政負担が生じると思うが、ドイツやアメリカのように 30 人程度にしていかなければ、将来、危機的状況になることを危惧している。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県 北 ②</p> <p>(二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和 7 年 5 月 23 日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学級の定員を 40 人から 35 人に出来ないか、検討していただきたい。 ・ どうすれば地元の中学生在が地元の高校に進学するのかを考えたときに、学習面で差が出ないような施策が必要なのではないか。 ・ 各地域に高校を 1 校は維持した上で、地域の生徒が地元の高校を選ぶために、地元の高校の魅力を発信していただきたい。 ・ 遠隔教育を小規模校に限らず進めることで、科目開設の幅が広がるのではないかと。また、教員の複数校勤務、きめ細やかな指導の導入を検討すべきではないか。 ・ 医師確保や IT 人材の育成も重要であるが、小規模校で行われている、一人一人に寄り添った教育も重要であり、そのような学校を必要としている生徒も増加している。 ・ 小規模校だからこそ遠隔教育においても教員の丁寧なフォローがあるとか、学校間連携を可能にするとか、教育条件の改善を早急に進める必要がある。 ・ 高校の授業料無償化や併願制の導入により小規模校の存続が厳しくなる。入学者数が 2 年連続 20 人以下となった場合、募集停止となる基準の適用については、より慎重に検討していただきたい。

今後の県立高校に関する地域検討会議（宮古地区）
意見交換の記録（要旨）
 【宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村】

令和 7 年 8 月 21 日（木）
 宮古地区合同庁舎 3 階大会議室

■ 質問

早野 由紀子 有限会社早野商店取締役

- ・ 宮古水産高校に水産と調理師養成施設の学びを集約した場合に、現時点での下宿で十分対応できるのか。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 現時点で下宿は一定数あるが、高校生向けではなく民間事業者向けのものも含まれており、少し足りないのではないかと認識している。ただし、現状の生徒数であれば対応可能と思われる。
- ・ 保護者と離れて生活する生徒に対しては、いわて留学の寮のようにハウスマスターが生活面も支援する体制が望ましく、下宿よりも寮の整備が適していると考えている。

中居 健一 岩泉町長

- ・ 1 学級校の募集停止の基準について、入学志願者の数が 2 年連続して 20 人以下となった場合、原則として翌年度から募集停止とすることとしているが、夢や希望が持てるように、もう少し柔らかい表現に検討できないか。原則という表現が曖昧である。子どもや町民にとって、非常に重要で影響が大きい部分である。
- ・ 寮は、県全体で体制を整え、子どもたちが住みやすい環境に整備する必要があるのではないか。
- ・ いわて留学の留学生も寮に入れるようにした方がよいのではないか。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ これまでの学級減や募集停止については、入学者推計、中学校卒業予定者数を判断材料としてきたが、いわて留学の取組等も踏まえ、検討していくべきと認識している。原則についてだが、小規模校において、いわて留学に取り組んでいるところについては、すぐに成果が出るものではないことも承知しており、それぞれの自治体の取組状況を踏まえて検討し、機械的に募集停止にすることは考えてない。
- ・ 今回は宮古水産高校の寮整備を考えているが、15、20 年後には、普通高校にも寮が必要になる可能性がある。普通高校では募集定員の 3 分の 1 又は 2 分の 1 程度、専門高校では募集定員に近い寮整備が必要だと思われる。整備の際には、寝室と共用スペースを分けたシェアハウス型など、生徒が住みやすい形がよいと考えている。他県の事例も参考にしながら進める必要があると考えている。

小野寺 康仁 宮古市 P T A 連合会 会長

- ・ 高校再編における統廃合に係る保護者の負担について、資料に盛り込んでもよいのではないか。
- ・ 通学などに係る経済的、時間的、心理的負担などについて、どのような施策をもって解消していくのかビジョンが必要ではないか。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 他地区においても制服やパソコン購入費用が高額となっているといった意見もあり、そういった意見を踏まえた上で、検討させていただきたい。

■ 意見交換

多田 康 宮古市副市長

- ・ これまで宮古水産高校の行く末を懸念し、漁協を中心に存続協議会を設置し検討してきたところ。今回、水産、調理師養成施設の拠点として位置付けされ、大いに評価をしている。一方、非常に範囲が広いので、全地区において合理的で丁寧な説明が必要だと考えている。
- ・ 宮古商工高校と宮古水産高校の校舎の集約は、令和9年度完成予定とされているが、現在、物価高騰により入札不調が多く続いており、地域住民も懸念をしていることから、工期を守っていただいた上で充実した学びの環境を作っていただきたい。
- ・ 推計では、宮古北高校が令和12年度に募集停止の見込みになっている。人数は概ね推計の通りと考えているところだが、募集停止をする際には、宮古北高校を志願する子どもたちの受け皿について配慮いただきたい。
- ・ 宮古高校が、今年度50年を経過し、校舎が大分古くなっている。体育館の改修計画も出ているようだが、校舎、設備の老朽化について、配慮いただきたい。

佐藤 信逸 山田町長

- ・ 宮古水産高校に、水産と調理師養成施設の学びを集約することについては理にかなっている。それぞれの自治体で様々な意見もあると思うが、人口減少、生徒数の減少の中においては、教育や設備を集中し、宿泊施設を整備することにより、子どもたちの教育の質の向上や、水産関係の後継者育成に繋がるものと評価している。
- ・ 部活動について、生徒数の減少により生徒が集まらない課題がある。小規模校では、沼宮内高校のホッケー部のように、選択と集中による対応が有効と考える。
- ・ 山田町としては、1学級校の募集停止の原則論の撤廃を求めてきたが、今回の当初案では、従来の基準が維持されており、残念である。
- ・ 沿岸被災地の人口減は内陸部とは事情が異なる。山田高校は地域の将来を担う人材育成の場として存続が必要であり、町もこれまでに様々な支援を行ってきた。山田高校の地域に根差した活動は、地元高校の存在意義の大きさを示すものであり、生徒の地域貢献活動の実績、成果を考慮したうえで、各地域の事情に即した柔軟な考え方を盛り込んだ計画にしていきたい。
- ・ 宮古地区内の各校の募集定員数について、早急に見直しの検討をお願いしたい。山田中学校は、宮古地区内で最多の在籍数だが、地元の山田高校への進学者が少ない状況である。

中居 健一 岩泉町長

- ・ 1学級校の募集停止に関する基準についての表現は納得できない。
- ・ 岩泉高校は少人数だが、野球部も単独チームとして出場している。小規模校でありながら、町民にとって希望の光となっていることから、岩泉高校の存続をお願いする。
- ・ 病院、高校がなければ岩泉町は町として体をなさない。広大な面積の県土において、小さな学校が果たす役割は非常に大きい。県と町がワンチームなって、生徒がここの学校で学んでよかったと感じられる環境を整備し、将来は地元で活躍できるような環境づくりを進めていきたい。

佐々木 靖 田野畑村長

- ・ 1学級校の募集停止に関する基準は、機械的には運用しないという説明を聞いて安心したところ。
- ・ 20年前と違って児童、生徒からも意見を聞き、また、地域の意見を聞いて反映していくということについて、今回は評価したいと思う。今後もその方針を堅持し、小規模校をどのように維持するのかという視点で、進めてほしい。

伊藤 重行 宮古商工会議所 専務理事

- ・ 本計画について、概ね評価をしたいと思う。
- ・ 令和9年度に予定している宮古商工高校と宮古水産高校の一体整備に係る入札について、現行の地域要件の緩和を検討していただきたい。宮古市はもとより管内の景況は、内陸と比べて非常に厳しい状況であり、地元の業者を優先して使っていただきたい。

前田 宏紀 田老町漁業協同組合 参事

- ・ 本計画について、少子化も避けられないため、このような形でよいと思う。一方で、宮古水産高校への水産や調理師養成施設の学びの集約については、申し訳ないと思うところもある。
- ・ これからの水産業は、養殖がかなり重要となることから、養殖科の創設をお願いしたい。
- ・ スポーツで学校を選択する場合がある。各地にはスポーツの発展に貢献できる優れた指導者が存在しているが、十分に活用されていない現状がある。こうした人材を積極的に活用し、地域や学校の特色を生かしたスポーツ活動につなげていくことも検討すべき。

菊地 敏克 三陸やまだ漁業協同組合 代表理事組合長

- ・ 少子化の進行を踏まえ、本計画の内容については、賛同する。
- ・ 高校進学率が99%となり、大学進学率も上昇傾向にある一方で、1次産業の就業者は依然として少ない状況である。前回の会議でもお願いしたが、1次産業への就業者が増えるような施策も計画に盛り込んでいただきたい。

早野 由紀子 有限会社早野商店 取締役

- ・ 岩手のために何かしたいと考える子どもたちは多く、郷土愛が育まれていると感じている。
- ・ 高校進学により、仲間との出会いが高校生活の醍醐味であり、進学率、進路、部活動、国際交流、通学距離などが高校選択の指標となる。特にスポーツに力を入れたい生徒にとっては、指導者の配置は進路選択の大きな要素であり、異動情報の事前共有も有効ではないか。
- ・ 統合により学力の幅が広がる高校では、特進コースの設置などで魅力化が図れるのではないか。
- ・ 岩泉高校は、地域との連携、給食の提供、郷土芸能同好会等の特色があり、交通事情も踏まえ地域に必要な高校であるため存続を望む。
- ・ 小規模校の受検希望の事前把握をもとに、町、高校が連携して支援策を講じることができないか。例えば、小中学校のスクールバスの活用や三陸鉄道やバスに自転車も乗せて通学もできるようなこともあってもよいと思う。小規模校だからこそできる手厚い支援や相談窓口の用意により、保護者も安心して受検させられることに繋がるのではないか。
- ・ 子どもたちの可能性を十分に引き出してもらえる高校教育を推進していただきたい
- ・ 入学者の推移の参考値はどのような計算で算出したのか伺いたい。
- ・ いわて留学で、県外生徒が高校を選ぶ決め手とは、どのような部分なのか伺いたい。

加藤 榮喜 農業

- ・ 本計画の方針について、賛成である。
- ・ 基本的な考え方の教育の質の保証において、広い県土と多くの中山間地を抱える本県の地理的状況を踏まえ、生徒の教育の機会を保障に向けた学校の配置に取り組むとあるが、この基本を守っていただきたい。
- ・ 商業や工業など、沿岸地区は内陸との格差がある。実際に農業経営においても、交通事情が良くなったとはいえ、依然として格差を感じている。

熊谷 吉秀 田野畑村森林組合 代表理事組合長

- ・ 小規模校について、各市町村の方々の思いはよくわかる。残して欲しいが、これからもっと生徒数が減り、20人のクラスになると、部活、勉強も含めて、いろいろなハンデが出てくる。
- ・ 田野畑校が募集停止になった当時は、残してほしいと思っていたが、現在は、さらに少子化が進み、各市町村レベルではなく、県レベルで再編を考えていく必要がある状況となっている。
- ・ 小規模校では、幼稚園、小中学校と同じメンバーとなるため、切磋琢磨できる環境が必要と考える。今後の再編については、部活動も含めて600人ぐらいの規模の学校が必要だと考えている。
- ・ 地元の高校を卒業して地元に残る生徒は少なく、特に、1次産業への就業者が少ない現状がある。そのような課題を踏まえると、今回の再編計画はこれでよいと考える。ただし、教育の機会の確保という点から、寮の整備は必要だと考える。
- ・ 岩泉高校への林業科の設置を検討し、全国から林業を学びたい生徒を集めてもよいのではないかな。

小野寺 康仁 宮古市PTA連合会 会長

- ・ 学校が再編された後のPTAの活動に関して、どのような展望を持っているのか不安がある。
- ・ 統合の対象になっている学校のPTAと県教委との話し合いは進んでいるようだが、地域も含んだ取組も進めていただきたい。
- ・ 廃校になる高校を使った廃校利用ビジネスにより収益化の取組を実施するなど、保護者負担への支援策も検討していただきたい。
- ・ 学校の授業などで、性教育に関することをもっと扱って欲しい。実際に愛媛県の宇和島市では地域ぐるみで、心交わるプロジェクト等の取組が行われている。

大石 裕治 山田町立山田中学校PTA 会長

- ・ 水産の学びなどの集約は賛成である。南北に長い本県にとって、集約して教育の質を上げるということは非常よいと思う。
- ・ 山田高校は、今年度の入学志願者数が18人となり、来年度20人以下の場合は募集停止となっている。その中で、いわて留学の取組も踏まえた上で検討するとのことであるが、それでも20人は超えないのではないかな。人数により機械的には判断しないという説明であったが、それが10人程度でも検討していただけるものなのか、その辺が曖昧だと感じている。
- ・ 宮古高校の学級を減らすことで、山田高校の入学志願者が20人を超える可能性もあることから、そのような対応についても検討していただきたい。

金澤 辰則 岩泉町立小本中学校PTA

- ・ 本計画に対して、令和7年度入試で宮古地区では243人の欠員が出ている現状であれば、統廃合も含めた再編は仕方がないと思う。一方で、子どもの学びの場の確保、統廃合による子どもや保護者の負担等の課題に対応するため、寮を含めたサポートの在り方について検討いただきたい。
- ・ 再編計画と聞くと保護者も不安に感じる部分もあることから、パブリック・コメント等、様々な意見に丁寧に対応していただけるとありがたい。
- ・ 岩泉高校は、学校と町が連携して魅力化に取り組み、地元にかかせない学校となっており、今後も地元にあることを望む。

佐々木 大 田野畑中学校PTA副会長

- ・ 田野畑村は宮古市と久慈市の間にあり、三陸鉄道を利用して高校に通学している。通学費については一部補助していただいているが、今後も通学費補助の継続や三陸鉄道の維持をお願いしたい。
- ・ 寮の整備について、シェアハウスのような形での建設が望ましいと感じている。

伊藤 晃二 宮古市教育委員会 教育長

- ・ 基本的には、本計画の概ねの方向性については賛成である。
- ・ 現在の中学生の進路選択において、自身の考え方が十分に反映されていないように感じていることから、中学生と高校生との意見交換の場を設けていただきたい。体験入学等もあるが、特に中学3年生が進路を決定する12月以降は、気持ちが揺れやすい時期でもあり、高校生や先生方からの生の声を聞ける機会があることで、中学生の進路意識の形成に大きく寄与すると考える。
- ・ 来年度から私立高校の授業料無償化が始まり、公立高校も含めて選択肢が広がる中で、保護者と経済的な面を含めた相談を行う機会も増えている。中学生自身が、高校生活の実態や困りごと、費用面などについて具体的な情報を得ることで、より納得感のある進路選択が可能になると考える。
- ・ 中学校の校長先生方からも「高校生との接点をもっと増やしたい」との声が寄せられている。小学校からキャリア教育を積み重ねてはいるが、中学3年生にとっては、義務教育を終えて進路を選ぶという大きな節目であるため、県立高校の先生方にも御協力いただきたい。

松葉 覚 山田町教育委員会 教育長

- ・ 今回示された案については、概ね理解した。宮古地区についても、よい案だと感じている。地域校、特に小規模校については、丁寧に扱っていただき、今後も各市町村の意見や要望に耳を傾けていただきたい。
- ・ 県ではスーパーキッズ事業などを通じて人材育成に取り組んでいるが、育てた子どもたちが県外へ進学、流出してしまう現状もある。そのような事例を目の当たりにしており、できる限り岩手に残って活躍してほしいという思いを持っている。そのためにも、再編計画が固まった段階で、各高校が持つ魅力を積極的に発信していただきたい。
- ・ 多くの中学校で高校説明会が行われているが、一度だけでは十分に理解できないこともある。複数回の説明機会を設けることで、地元高校や宮古地区の高校がどのような教育活動を行っているかを知ることができ、進路選択の参考になるのではないかな。併せて、県内に進学してもらえよう、魅力の発信を強化していただきたい。
- ・ 高校の集約が進む中で、それぞれの学校が持つ特色や魅力を早い段階で示すことで、中学生が進路をより深く理解し、納得のいく選択ができるようになると思う。

巖岩 千裕 岩泉町教育委員会 教育長

- ・ 岩泉高校の令和10年度の学級減の推計について、出生数などの客観的なデータに基づいたものであると理解した。
- ・ 岩泉高校は、生徒の挨拶や地域住民との交流を通じて、地域に活力をもたらしており、中高連携や商工連携を軸に活発に教育活動が展開されている。小学生への技術指導や陸上記録会への協力、街中探検、防災教育など、多様な取組を通じて、子どもたちが高校生に憧れを抱き、進路選択にも良い影響を与えている。
- ・ 第一次産業に関する「K I Z U K I プロジェクト」では、林業・農業分野の研究を高校生が行い、地域おこし協力隊と連携しながら地域への還元を目指している。
- ・ 英会話学習を通じて、クルーズ船来訪時には通訳として活躍するなど、国際的な場面でも貢献している。この活動は地域の魅力発信にもつながっており、今後も支援を継続していきたい。
- ・ いわて留学については、都市部の生徒が自然豊かな地域で学ぶ機会として非常に有意義であると考えている。ただし、制度運用には一定のハードルもあるため、今後の改善と支援をお願いしたい。

藤岡 宏章 田野畑村教育委員会 教育長

- ・ 現状と課題を踏まえて、よくまとめられた計画だと感じている。現状と課題の整理は論理的で、特に現状と課題1が計画の基盤となっており、4、5はその対応方針、2、3はアプローチとして位置づけられている。
- ・ 一方で、計画全体に少子化対応の色が強く、多様化・多様性への視点がやや不足している印象がある。義務教育では次期学習指導要領に向けて「子どもの多様性への対応」が重視されており、高校教育でも「学校の多様化」と「教育内容の多様化」の両面からの対応が必要ではないか。また、各高校が特色化・魅力化に努力していることは中学校現場にも伝わっており、生徒の進路意識にも影響している。今後は「多様性に基づく魅力化」の視点を強化し、計画の中でもそのボリュームを増やすことで、より希望を持てる内容になると考える。
- ・ 計画において、「望ましい学校規模を設定しない」と明記されている点は、地域の実情に配慮した柔軟な姿勢として非常に評価できる。温かみのある表現であり、好意的に受け止めている。
- ・ 教育の機会の保障については、計画の中で十分にアプローチされていると感じている。一方で、教育の質の保証については、今後さらに具体的な言及があるとより良い計画になるのではないかと考えている。

一ノ倉 眞吾 宮古地区中学校長会（宮古市立宮古西中学校長）

- ・ 宮古地区の中学校長からは、令和6年度以降の出生数や児童生徒数の減少を踏まえ、県の高校再編計画は丁寧でよく考えられているとの評価が多く寄せられた。一方で、学級減や募集停止に関する話題も多く、学級減によって募集停止を回避できる可能性も議論されたが、長期的な生徒数の推移を見れば限界があるとの認識も共有された。
- ・ 自分の町から高校がなくなることへの不安は大きく、高校卒業までは親元から通わせたいという家庭の声が根強く、進路選択の壁になっている。宮古西中学校でも、県外や盛岡、花巻方面の高校を選ぶ生徒はいるが、家庭の事情を踏まえた進路指導が必要であると感じている。岩泉町の寮の話題も出たが、家庭の理解や支援体制の整備が不可欠であり、寮や下宿の導入には慎重な対応が求められる。
- ・ 宮古地区校長会としては、県の取り組みに賛同しつつ、各家庭が抱える課題への理解と配慮を強く求めたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 通学支援について、宮古水産高校への集約に伴い、通学支援が必要となるケースが想定される。費用や時間等から通学は現実的ではないことから、下宿支援等が必要であると考えており、今後、県としても宮古市と連携して制度設計を検討していきたい。
- ・ 宮古水産高校への集約にあたっては、令和4年度からのいわて留学の取組により、今年度は2名の生徒が入学するなど、一定の成果が見られていること、また、専門的な支援を受けながら教育環境の充実を図っている点を考慮し、宮古水産高校に集約する案としていることを理解していただきたい。
- ・ 参考資料に示している入学者の推計値は、参考値には「県境隣接協定」及び「いわて留学」による他県からの入学生の推計を加えた数値である。宮古水産高校については、令和4年度から、いわて留学の取組が始まり、現在までの3か年平均の入学者数を想定して推計に反映している。なお、隣接協定は、岩手県では青森県南部、宮城県北部、秋田県と協定を結び、他県からの入学を受け入れている。例えば、雫石高校や花泉高校では、隣接協定により他県からの入学生が在籍しており、いわて留学に近い形で受け入れが行われている。

- いわて留学の入学者数が伸び悩んでいる背景には、住環境整備に大きな課題がある。住居の確保が困難な地域では受け入れが進みにくく、逆に住環境が整っている地域では一定数の入学者が見られる傾向がある。学校の授業時間外においても、ハウスマスターが生徒の生活面や精神面のケアを行っており、県外の保護者からも安心して送り出せる環境の構築を図っている。これまで県として支援が十分でなかったが、今年度より地域みらい留学を主催する一般社団法人地域・教育魅力化プラットフォームと連携し、ハウスマスターの役割、住環境の整備、受け入れた生徒の精神的安定性などの受け入れ体制の在り方を検討し、これらの取組を、現在、取り組んでいる高校及び今後導入予定の高校へフィードバックし、支援体制の強化を図っていく方針である。
- 性教育もその通りだが、岩手大学の調査によると、LGBTQなどの教育的配慮が必要な児童、生徒も一定程度は在籍していることもあるため、今後の高校教育も含めた対応の在り方について検討してまいりたい。